

コンクリートに利用される「無限磁場」の技術による水について

以下は「無限磁場」の「トランスマスター」装置による循環水のテストデータである。

I. トランスマスター循環水の経時変化について

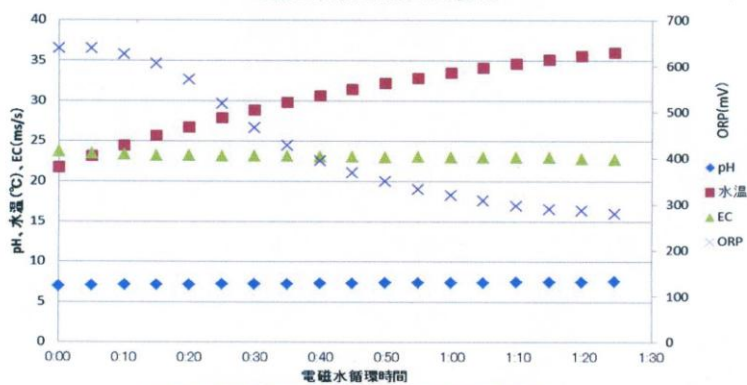
1. 試験条件

ポンプ能力 10L/min、槽内水量 3L (トランスマスターに1分間で3.3 (10÷3) 回接触)

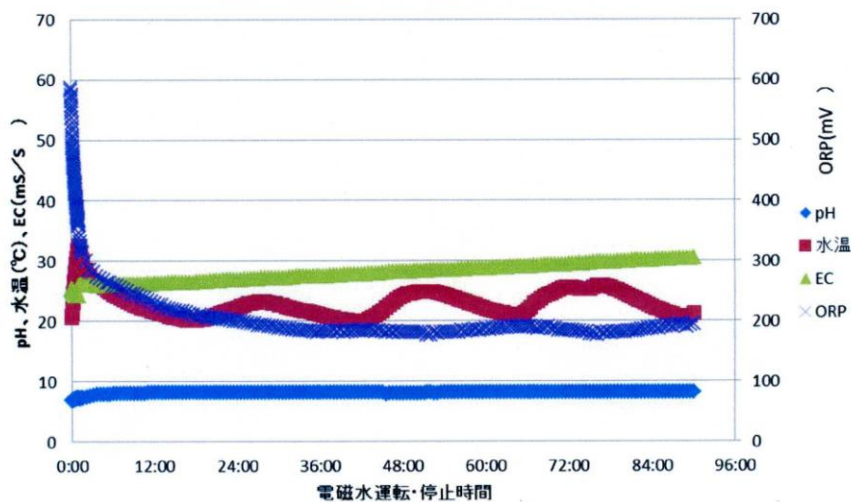
2. 結果

測定日時	経過時間	水温 ℃	pH	水温 ℃	EC mS/m	水温 ℃	ORP mV
2012/5/9 14:01	0:00	21.7	6.94	21.5	23.7	21.7	639
2012/5/9 14:06	0:05	23.1	7.06	23	23.4	23.1	639
2012/5/9 14:11	0:10	24.4	7.1	24.2	23.3	24.4	626
2012/5/9 14:16	0:15	25.6	7.12	25.5	23.2	25.6	606
2012/5/9 14:21	0:20	26.7	7.14	26.6	23.2	26.8	571
2012/5/9 14:26	0:25	27.8	7.2	27.7	23.1	27.9	518
2012/5/9 14:31	0:30	28.8	7.24	28.7	23.1	28.9	466
2012/5/9 14:36	0:35	29.8	7.21	29.7	23.1	29.8	427
2012/5/9 14:41	0:40	30.6	7.29	30.5	23	30.7	394
2012/5/9 14:46	0:45	31.4	7.34	31.3	23	31.5	368
2012/5/9 14:51	0:50	32.2	7.4	32.1	22.9	32.2	350
2012/5/9 14:56	0:55	32.8	7.42	32.7	23	32.9	332
2012/5/9 15:01	1:00	33.5	7.42	33.4	22.9	33.5	319
2012/5/9 15:06	1:05	34.1	7.38	34	22.9	34.1	308
2012/5/9 15:11	1:10	34.6	7.43	34.5	22.9	34.6	297
2012/5/9 15:16	1:15	35.1	7.46	35	22.9	35.1	290
2012/5/9 15:21	1:20	35.6	7.48	35.5	22.8	35.6	287
2012/5/9 15:26	1:25	36	7.52	35.9	22.7	36	280

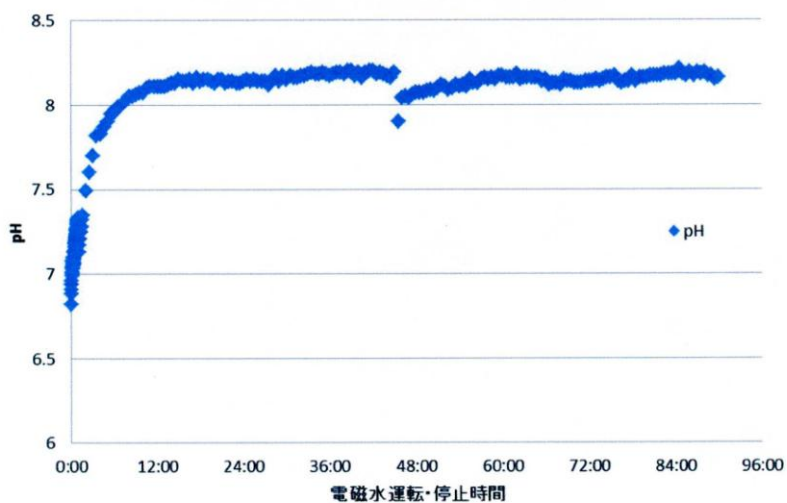
電磁水循環時間による変化



電磁水製造後(120秒運転後)の経時変化



電磁水製造後(120秒運転後)のpH経時変化



1. 鉄筋コンクリートの強度が増大する。

- (a) 従来では侵入し得ない骨材や鉄筋の微細な空隙「無限磁場」の技術による水はセメント粒子と共に侵入し空隙中の空気〔酸素〕を追い出す事が出来る。
- (b) 従ってセメントと小石や鉄棒との接触面積は大きく増大するため鉄筋コンクリートの強度は大きく増大する。

2. また鉄筋の酸化を防止しコンクリートの強と共に寿命を増大する。
3. コンクリートの固化反応を大きく促進しコンクリートの固化時間を大幅に短縮する事が出来る。
 - (a) コンクリートの二次製品の脱型に要する時間を短縮し作業能率を高める。
4. コンクリートの強度を高めると共に作業性を改善しコンクリートの二次製品に使用する減水剤を減少もしくは完全に無くす事が出来る。

「無限磁場」の技術の水によるコンクリートの諸性質の変化について

- (a) コンクリート自身の基礎的強度を高めると共に鉄筋との密着強度を大幅に増大させる。
 - (b) そのため施設及び建築物のコンクリートの耐震性及び寿命を大幅な向上させる可能性が大きい。
 - (c) コンクリートの二次製品に使用される減水剤や AC 減水剤等の薬剤の混入による環境汚染の防止
- A. 施設及び建築物のコンクリートの基礎的強度の向上
- (a) 「無限磁場」の技術は燃料油のみならず広く気体（空気）や液体（水）においても従来の科学技術では考えられない程の有益な現象を発生させ、そして新しい産業の創生の原動力となり得る。
 - (b) 「無限磁場」の技術により原子を高エネルギー化した水の使用によりコンクリートの強度は高まる。
- B. 従来のコンクリートに減水剤を使用する理由
- (a) 型枠を利用し製造するコンクリート二次製品では致命的な欠損部分を生じない様に液状コンクリートには予め最低限度の流動性が与えられる事は重要である。

- (b) 上記の流動性を確認するため「スランプ値」を指標としている。
- (c) 一般的に建築用のコンクリートではスランプ値は7.5 cmであり土木用のコンクリートではスランプ値は5 cm～6 cmの時を作業性の基準としている。
- (d) コンクリートの強度を高めるためには液状コンクリートにおいて固化に必要な水分以外の余分な水を可能なかぎり使用しない事が最も重要である。
- (e) この場合、液状コンクリートに流動性を与えるための水分が少な過ぎるため液状コンクリートの流動性はより低下する。その結果、欠損部分のないコンクリート二次製品を製造することが出来なくなる。
- (f) そのため水分量を最小限度にして液状コンクリートの「作業性」を向上させ打設が出来る様にするためコンクリート用の化学混和剤として減水剤及び AE 減水剤等の薬品を利用している。

C. 「無限磁場」の技術の水による液状コンクリートの「作業性」

- (a) 「無限磁場」の技術による液状コンクリートでは水分子の磁気による大きな分子運動エネルギーは大きく増大し粘性は劇的に低下する。
- (b) 水の激しい粘性低下のため水やセメント粒子は従来では到底考えられない粗骨材や細骨材の表面のあらゆる微細な空隙に浸入し付着する。
- (c) 微細な空隙への浸入により粗骨材や細骨材に付着した水とセメントは空隙に拘束される。
- (d) そのため粗骨材や細骨材に拘束されない水は減少するその結果、液状コンクリートの「作業性」は大きく低下し「ブリーディング」（浮き水）も減少する。
- (e) もしもこの流動性の低下の状態では液状コンクリートを固化するとすれば、必然的にコンクリート二次製品及び鉄筋コンクリートには欠損箇所が発生する。
- (f) しかしながら固化したコンクリートと粗骨材や細骨材の表面のあらゆる微細な空隙に水と共にセメント粒子が侵入し粗骨材や細骨材との接触面が増大するた

め固化したコンクリートの強度は増大する。

D. 「トランスマスター」装置の繰り返し通過回数によるコンクリートの作業性の変化

(a) 「トランスマスター」の利用によりコンクリート二次製品や鉄筋コンクリートにおいて減水剤や AE 減水剤等の薬品は使用せず従来の最小限度の水分量でコンクリートの流動性を確保し欠損のない完成製品とする事が出来る。

(b) 従って水とセメントと小石かなる重さの割合を変化させず磁気による大きな分子運動エネルギーは予め予定された数値によってトランスマスター」装置を繰り返し通過する水に与えられる。

(c) その結果. 欠損部分のないコンクリートの二次製品と鉄筋コンクリートを生産する事が出来る。

(d) 「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数が一定の回数に達した水により液体コンクリートの粘性の状態は急激に大きく変化する。

(e) この一定の繰り返し回数を「粘性変換点」と仮称する。

(f) この場合の「粘性変換点」は40回である。

(1) 「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数が「粘性変換点」以下の場合

(a) 繰り返し通過回数が大きくなるに従って液体コンクリートの「浮き水」次第に減少し粘度は高くなる。

(b) したがって. 液体コンクリートの「作業性」は次第に悪くなり. そのままで型に投入しコンクリートの二次製品を全く製造することは出来ない。

(2) 「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数が「粘性変換点」以上の場合

(a) 更に「粘性変化点」を超え繰り返し通過回数が大きくなるに従って液体コンクリートの浮き水は逆に増加し粘度は低くなる。

(b) したがって. 液体コンクリートの作業性は次第に良くなり. 欠損のないコンクリー

トの二次製品を生産する事が出来る。

E. 「トランスマスター」装置への繰り返し通過回数を「粘性変換点」以上とした水について

- (a) 「トランスマスター」により「粘性変換点」における磁気による運動エネルギーを超えた大きな磁気による運動エネルギーが水に供給される。
- (b) 水は激しい磁気による分子運動によりセメント粒子と共に粗骨材や細骨材の表面や微細な空隙に付着していた水だけが粗骨材や細骨材外部に滲出する。
- (c) 従ってそのまま粗骨材や細骨材の表面や微細な空隙に残存したセメント粒子は時間の経過とともに一体のままで固化しコンクリートとなる。
- (d) 従ってコンクリートと細骨材や粗骨材との接触面積が大幅に増大するためコンクリートの強度も大幅に増大する。
- (e) 以上のように液状コンクリートの「作業性」を確保しつつ「トランスマスター」装置への水の繰り返し通過回数による液体コンクリートの特性変化が利用される。

F. 液状コンクリートの化学混和剤（減水剤及び AE 減水剤）による環境汚染の拡大

- (a) 減水剤及び AE 減水剤を併用すれば水の量を増大させず液体コンクリートの「作業性」を低下させずに型に投入する事が出来るためコンクリートの強度を低下させる事はない。
- (b) しかしながら減水剤及び AE 減水剤は環境汚染物質であるため今日ではコンクリートに混入され広く使用されているため環境汚染の拡大が懸念されている。

G. 薬品を使用しないコンクリートによる環境汚染の防止

- (a) 「無限磁場」の技術による「トランスマスター」装置による方法は磁気による大きな分子運動エネルギーが与えられた水に関する物理的な現象を利用する方法である。

- (b) 上記の「トランスマスター」装置では、その効果はほぼ40～50時間継続しその後急激に減衰する。
- (c) そのため一定時間の後には完全に元の水になるので環境への影響は完全に消える。

以上